

七戸病院認知症ケアチーム おれんじれたー

7月

Vol.010

2026年 No.2

発行担当:長谷地・久保田

身体拘束の実施状況(4月~6月)

日々の皆様の身体拘束をしないケア、ご苦勞お察し致します…
診療報酬改定に伴い身体拘束の実施状況を定期的に周知しています
患者さんのためにこれからも「解除」するためのカンファレンスを続けましょう!

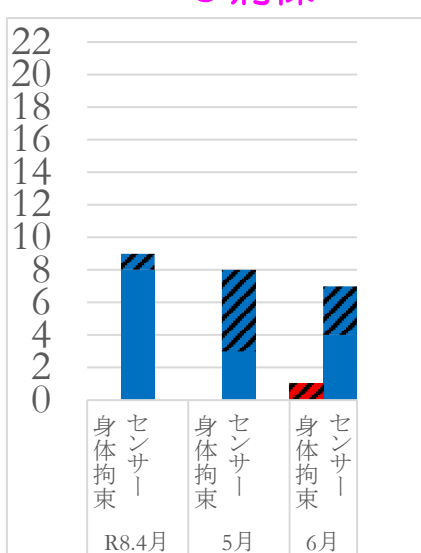
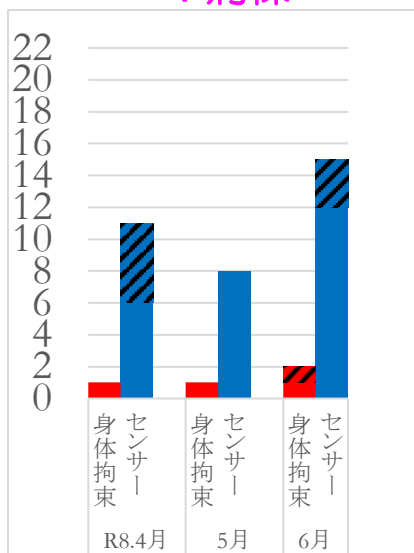
医療療養病床身体拘束率全国平均→12.7% (厚労省 H26 年度老人保健健康増進等事業調べ)

(件)

1 病棟

(件)

3 病棟



■ 身体拘束
■ センサー
/// 解除



当院今年度 6 月までの

身体拘束率 2.2%

身体拘束解除率 67%

センサー解除率 29%

身体拘束は、ミトン 3 件、
介護寝巻 1 件でした
2 件の身体拘束を解除できた理由は、
状態の変化を早期に見極めたことと
付添による見守りでした 日々、状態
のアセスメントが重要と考えます
センサーの解除の理由も、行動をアセ
スメントしたため解除できています

1 病棟の身体拘束率 3.8%

3 病棟の身体拘束率 0.6%

身体拘束解除率 50%

身体拘束解除率 100%

センサー解除率 24%

センサー解除率 38%



看護師
刑事告発!



「身体拘束が命を奪う結果に」

2023 年、入院中の S は同室者で両手をベッドで拘束されていた T 氏を襲い死亡させた 盗癖のある S は他患の金品を盗むたびに看護師から身体拘束を受けた 看護師から「次に盗めば両手を挙げて縛る」と告げられ継続的に身体拘束が繰り返された 家族の説明や同意を得ず、さらに医師に報告せず看護師自ら判断して身体拘束を行っていた S は「人を殺せば拘束から免れる」と説明した 判決では身体拘束の強化が犯行の引き金になったと認定され違法な身体拘束の疑いで理事長、医師、看護師が刑事告発された
当院では治療の安全対策上、切迫性・非代替性・一時性に限り、医師の許可及び患者さんやご家族の承諾を得てやむを得ず身体拘束を行うことがあります その際は毎日解除するためにカンファレンスと記録を行っています 日々尊厳のあるケアに向き合い信頼される病院としてできる限り身体拘束をしない取組を行っております

7/20 (月)

